

第50回 鳥取市文化賞受賞者

一般社団法人アトスペースからふる

〔文化活動〕



【受賞理由】

障がい者が個性を活かし、働きやすく暮らしやすい地域社会とは何か。利用者の就労や仕事のあり方を考えつつ、「アートを仕事に」するという高い志を掲げ社会とつながるという仕組みづくりを目指して活動している。

利用者の意思及び人格を尊重し、常にその立場に立ったサービスの提供に努めることを方針に掲げ実践しており、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、通常の事業所に雇用されることが困難な利用者に対して就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、知識及び能力の向上のために必要な修練その他の便宜を適切かつ効果的に行ってきた。また、鳥取市美術展などの公募展でも利用者の作品が評価され多数の受賞を受けている。

設立目的に「障がい児者のアート制作を中心に、すべての人が主体的に社会参加し生きがいを持って自己実現に向けた地域生活を営めるよう支援し、共生の地域づくりを目指す」とあるように、「からふる」のアートを通じた障がい者福祉の事業は、障がいのある人々に光をあて、生きがいをもたらす活動としてその存在は大きい。

【経歴】

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 平成17年 | 現理事長が個人事業としてアート教室アトスペースからふるを立ち上げる |
| 平成26年 | NPO法人楽のグループとなり就労継続B型事業所開所 |
| 平成30年 | 一般社団法人設立 |
| 平成31年 | 現在地で就労継続支援B型事業所開所 |
| 〃 | ギャラリーからふる運営開始 |
| 〃 | アソビバからふる（アート教室）開始 |
| 令和元年 | 鳥取県は一とふるアートギャラリー認定第1号 |
| 令和5年 | あいサポート・アートセンター運営事業を共同事業体の代表者として受託 |

【受賞歴】

- | | |
|--------------------------|--|
| 平成26年、28年、29年、令和4年、5年、7年 | 鳥取市美術展（旧鳥取市民美術展含む）市展賞輩出 |
| 平成30年 | 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展 審査員賞（最高賞）輩出 |
| 令和元年 | あいサポート・アートとっとり展最優秀賞輩出 |
| 令和3年 | 三井住友海上あいおい生命10周年記念キャラクターコンテスト優秀賞受賞者輩出 |

【芸歴・著作歴】

平成21年、22年、26年、30年、令和2年
鳥取信用金庫カレンダー挿絵採用
令和 元年～フクシ×アート WEEK(現フクシ×アート WEEKs)開催
令和 3年 日本海新聞コラム「潮流」掲載／全12回
〃 株式会社ヘラルボニー登録作家契約
令和 4年～鳥取洋画家協会展招待出品
令和 5年～鳥取県立バリアフリー美術館登録作家多数輩出
その他、数多くの個展・企画展を開催

【作品に対する思い】

現在アートスペースからふるには、障がいと共に生きるアーティストが40人近く在籍中です。それぞれの個性が光る場所、時を模索しながら団体一同でより良い社会を目指して活動しています。

【活動に対する思い】

『アートスペースからふる』は、アートをする者、それをサポートする者、空間、画材などの環境の整った場をアートスペースと捉え、障がいのある人もない人も通えるアート教室として2005年1月鳥取市でスタートしました。全体展をとりぎん文化会館展示室などで5回、企画展や個展等を主に鳥取市内のパンカフェののな(現cheese garden)にて45回以上展示し、多くの皆様にご覧頂きました。その中で日々生まれてゆく作品達を、「もっと多くご覧頂きたい」「できるなら商品として皆さんのお手元に届けたい」という想いを抱くようになりました。

その想いは2014年5月倉吉市のNPO 法人楽の元、アート教室からアートを仕事とする福祉事業所としてスタートすることで実現しました。アートを仕事とすることは一般的に考えても難しいことではありますが、彼らの作品を見ていると可能に思えてきます。「他の絵も見たい」「手元に置き長く眺めたい」そんな気持ちを抱かせる能力を才能と呼ぶのなら、彼らにはそれが備わっているのではないかと思います。また公募展に積極的に応募し数々の賞を受賞しました。アートには障がいがあることなど関係ないと証明されたのです。

そして2019年1月、一般社団法人として独立という形をとりました。1階部分は就労スペース、2階部分はギャラリーを併設し今まで以上に多くの方に作品を見て頂ける場所にしました。また作品をあしらったオリジナル商品の展示・販売も行い、「もっと多くご覧頂きたい」「できるなら商品として皆さんのお手元に届けたい」という想いは現実のものになりました。

これからアートスペースからふるが実現していきたいことは「ここがあらゆる人にとって必要な場所になってほしい」という願いです。コミュニティスペースでお茶を飲みゆっくり過ごす、ギャラリーにて豊かな発想に触れる、アソビバで普段できないアート活動をする、からふるなグッズを購入する、就労施設で自身のイメージを形にする、障がい者支援という仕事に就く。アートスペースからふるがあって良かったと思っていただけるよう、これからもひとつひとつ願いを実現していきたいと思っています。